



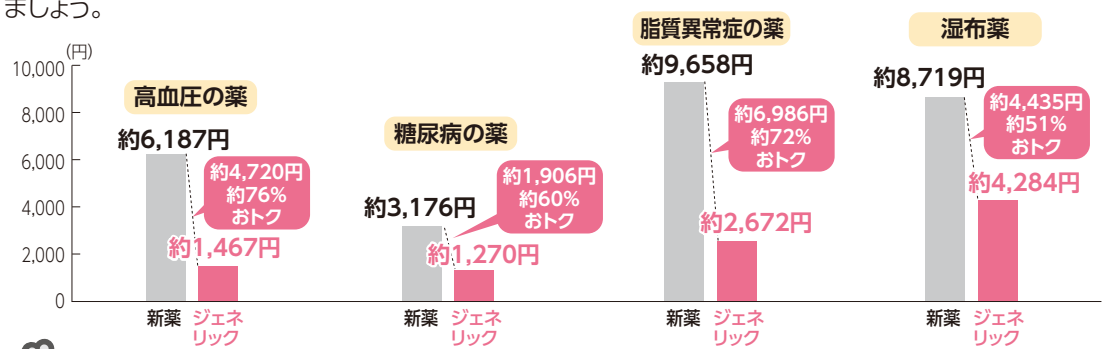
ジェネリックで薬代を「節薬」しよう!



現在のわが国の医療費は年間で約42兆円。10年前と比較しても約25%増加しています。中でも薬剤費は約8兆円で、ジェネリックは増え続ける医療費の抑制に効果があるといわれています。海外でもジェネリックの使用が推進されていますが、わが国の浸透率は、それほど高くありません。政府は、平成32年9月までに、ジェネリックの使用割合を80%とするという数値目標を掲げ取り組んでいます。

ジェネリックはどれくらい安いのか?

生活習慣病などで継続的に服用する場合は、新薬とジェネリックの価格差は大きくなります。また、消炎鎮痛剤(痛み止め)や軟膏、目薬など、内服薬だけではなく外用薬にもジェネリックは出ています。ジェネリックで、家庭の医療費を節減しましょう。



※代表的な薬を1年間服用(湿布薬はひと月に1処方当たり70枚使用)した場合(自己負担3割、薬価は平成31年1月現在)。薬代のみ金額の例。

飲みやすく工夫されたジェネリックも多い!

ジェネリックは、後発であるという強みを生かし「こうだったら飲みやすい」というニーズを集めて、さまざまな工夫が加えられています。その結果、新しい付加価値を備えたジェネリックが生まれています。

例え	錠剤が大きくて飲みづらい...	味が苦い...	薬を飲み込むのが苦手...
↓	錠剤を小さくする	コーティングなどで苦味を少なくする	すぐに溶けて、水なしでも飲める錠剤にする
↓	表示が小さくて見づらい...	冷所保存しなくてはいけなくて不便...	シロップで持ち運びしにくい...
↓	製品名を大きく表示する	常温保存でも可能にする	ゼリー状にして外出先でも服用しやすくする

処方してもらうには? 服用中の薬にジェネリックはある?

医師に相談すれば、一つ一つの薬に対してジェネリックに変更しても良いか判断してくれます。処方せんを渡す際にも、ジェネリックを使用したい旨を薬剤師に伝えましょう。

すべての病気および新薬に対してジェネリックがあるわけではありません。現在服用中の薬がジェネリックに切り替えられるか、また、切り替えた場合の差額をサイトで調べることができます。

日本ジェネリック医薬品学会「かんじゃさんの薬箱」(<http://www.generic.gr.jp>)

高齢のご家族がいる方へ

薬を飲むことが多い高齢者にもジェネリックをすすめてみましょう。特に、何種類も薬を飲んでいる場合は薬代の差を実感しやすいはず。また、薬をもらいすぎていてあまっているのであれば、医師や薬剤師に相談し、薬の量や種類を調整してもらうことをおすすめします。薬代の大幅な節約になるだけでなく、副作用などでの身体の負担を減らすことにつながります。